

研 究 分 野	水資源生態、資源評価、漁場環境	部名	漁業開発部
研 究 課 題 名	サケ・マス増殖管理推進事業 サクラマス		
予 算 区 分	水産業振興費 (国1/2)		
試験研究実施年度・研究期間	H11		
担 当	植村 康		
協 力 ・ 分 担 関 係	内水研		

〈目的〉

サクラマス資源増大の方策策定のための基礎資料を得る。サクラマス人工種苗放流後の海での移動回遊、回帰率等を調査し、放流効果を算出し、栽培漁業化の可能性を探る。

〈試験研究方法〉

放流魚の初期の移動回遊を調べるため幼魚混獲調査を行い、成魚の移動及び回帰率を調べるため市場調査を行う。サクラマスの漁期は1月から6月であり、回帰群と一致するため、平成15年度報告書は2003年1月から6月の調査結果(市場調査、幼魚混獲調査)で取りまとめる。

〈結果の概要・要約〉

1) サクラマス市場調査

平成14,15年度は現地漁協に委託して、サクラマス漁期(1~6月)に漁獲サクラマスの標識の有無・種類を記録、報告してもらった。平成16年度も継続調査する。

調査地点：日本海沿岸：①深浦漁協、②大戸瀬漁協

津軽海峡沿岸：③大畑町漁協

太平洋沿岸：④白糠漁協

調査期間；2003年1月から6月

2) サクラマス幼魚混獲調査

現地調査員に依頼して、サクラマス幼魚が混獲される平成15年1月から6月にサンプルを収集してもらった。回収後、標識の有無、体長、体重、胃内容等を測定した。

調査地点：日本海沿岸：①岩崎村、②深浦町

津軽海峡沿岸：③三厩村龍飛、④平館村、⑤佐井村、⑥大畑町、⑦むつ市関根浜

太平洋沿岸：⑧東通村尻労

〈主要成果の具体的なデータ〉

1) サクラマス市場調査

- ・ 深浦は平成15年1月から6月の54日で2,627尾調査して、53尾の鰭カット標識魚を確認した。標識魚割合は2.02%であった。脂鰭カット標識魚が最も多く51%を占めた。他に左腹鰭カット、脂鰭+左腹鰭カット、脂鰭+右腹鰭カット、左胸鰭カットがみられた。
- ・ 大戸瀬は平成15年1月から5月の65日で5,492尾調査して、89尾の鰭カット標識魚を確認した。標識魚割合は1.62%であった。脂鰭カット標識魚が最も多く52%を占めた。他に右胸鰭カット、左胸鰭カット、左腹鰭カットがみられた。
- ・ 大畑は平成15年1月から6月の119日で16,202尾調査して475尾の鰭カット標識魚を確認し

た。標識魚割合は 2.93%であった。脂鰭+右腹鰭カット標識魚が最も多く 45%を占めた。他に脂鰭+左腹鰭カット、脂鰭+右胸鰭カット、脂鰭+左胸鰭カット等がみられた。

- ・ 白糠は平成 15 年 1 月から 3 月の 51 日で 10,190 尾調査して 403 尾の鰭カット標識魚を確認した。標識魚割合は 3.95%であった。標識部位の組合せは多様であり、多い順に脂鰭+左腹鰭カット 18%、脂鰭カット 17%、右胸鰭カット 14%、左腹鰭カット 11%等であった。

2) 幼魚混獲調査

- ・ 計 421 尾が集まり、73 尾が標識魚であった。
- ・ リボンタグ標識魚は 19 尾で放流元は北海道 2 尾、秋田県 7 尾、山形県 7 尾、岩手県 3 尾であった。
- ・ 鰭カット部位の組合せは左腹鰭カット 28 尾、右胸鰭カット 21 尾で全体の 73% を占めた。
- ・ 胃内容物重量を測定できた 364 個体のうち全く摂餌していない個体は 47%あった。摂餌 193 個体の摂餌率は 0.01~4.48%で平均 1.30%であった。
- ・ 摂餌生物は不明 19 個体を除いた 174 個体でみると、魚類が 56%を占めた。イカナゴや魚類稚仔の体長 3cm前後のものを多く摂餌していた。他に端脚類が 25%、アミ類が 19%であった。

〈今後の問題点〉

- ・ 各道県・国で標識の鰭カット部位の調整がなされず、標識部位が重複することが多いため、鰭カットだけでは標識魚の帰属が不明の場合が多い。特に青森県放流魚は鰭カットのみの標識であり、他道県と標識部位が重複するため、青森県放流魚の特定は困難である。

〈次年度の具体的計画〉

平成 15 年度と同様の調査を行う。

〈結果の発表・活用状況等〉

- ・ 平成 15 年度報告書は平成 16 年度に印刷する予定である。
- ・ 印刷前でも可能な限り、協力漁協、漁業者を中心に、調査結果の公表を行った。